

第6回特別講演会（DRM コロキウム）：相互連結した災害リスクの解読（Understanding Interconnected Disaster Risks）を開催しました（2023/5/23）

テーマ：国連大学欧州／国連大学環境と人間の安全保障研究所、災害リスク、気候変動、芸術と科学

会場：東北大学災害科学国際研究所 多目的ホール

災害科学国際研究所の災害人文社会研究部門は、国際共同大学院レジリエンス・安全学プログラム（GP-RSS）との共催で、国連大学欧州副学長（UNI-ViE）で国連大学環境・人間安全保障研究所（UNU-EHS）所長のシャオメン・シェン教授を招き、第6回 DRM コロキウムを開催しました。

講演は「相互接続された災害リスクの理解」と題され、UNU-EHS のフラッグシップレポートで問いかけている以下に答える形で行われました。『気候変動が今後も続き、その影響がますます大きくなる中、災害リスク軽減のための課題は今後ますます大きくなり、自然喪失や生物多様性の消失の影響によってさらに強まるでしょう。リスクに対処するためのソリューションはすでに世界中で実施されていますが、相互接続性はまだソリューションの設計と実施の中心に置かれていません（UNU-EHS, 2022, pp.6）。』シェン教授は、具体的に悪評のある過去の10の災害を取り上げ、その根本原因を明らかにすることで、相互接続されたリスクのシステムのマクロなイメージを提示しました。さらに、社会のさまざまなアクターが責任ある行動をとることでリスクを低減するために「ソリューション・パッケージ」（複数の解決策を持つアプローチ）が有効であることを説明しました。

会場には50名以上の学生・教員が参加し、約45分の講演と約45分の活発な議論が行われました。



多様な災害を引き出すリスクが如何に相互に関連しているかについて話すシェン教授



新しい視点からの説明に聞き入る参加者の様子

文責：井内加奈子（レジリエンス計画研究分野）